

第 36 号 平成 26 年 10 月 1 日

発行所／神山復生病院 〒412-0033御殿場市神山109 (Tel)0550-87-0004 (Fax)0550-87-5360
(E-mail)info@fukusei.jp (ホームページ) <http://www.fukusei.jp/>

《 理 念 》

神山復生病院は キリストの愛に基づいて 病める人も健やかな人も 神によって創られた人間として
喜びも苦しみも共にしながら 一人ひとりの命を大切に 希望をもって医療と福祉に献身します

《 基本方針 》

- 1 患者様本位の医療
患者様一人ひとりの生活を重視し、地域のニーズに応えるサービスを提供します。
- 2 職員の人材育成
優れた人材を育成するため教育・研修を充実します。
- 3 経営の安定化
職員の生活の基盤として、病院の経営状態を安定化します。



復元を待つ

復生記念館の復元修復工事が始まりました。記念館の周りには足場が備え付けられ、ネットですっぽり覆われています。現在解体調査が行われ、少しずつ解体しながら創建当時の建物の様子はどうだったかを調査しています。
約2年覆いの中で創建当時の姿に生まれ変わります。



そしてそれを待っているものがあります。大正時代の写真、5代目院長レゼー神父の傍らの暖炉の上の小さな時計。高さ30cmの時計本体の上に少年2人のブロンズ像が乗っています。記念館のシンボリックなグランドファーザークロックをご存じの方は多いと思いますが、その時計よりももっと古いもので約200年前に作られたものだそうです。この時計はレゼー神父の私物でした。レゼー神父から井深八重さんに渡し、復生病院ゆかりの神父様、複数の信者さんを経て、復生病院に還ってきました。

今度は暖炉の上で皆様にお会いする日を楽しみしています。

解体途中で、皆様に1階内部と足場ステージ場から見学頂き、案内説明をする見学会を11月8日(土)に行います、興味のある方は是非参加してみてください。

日時：11月8日(土) PM 1:00~3:30 場所：旧会議室、復生記念館

内容：約50分間、調査報告のあとグループに分かれ順次現場見学

募集人数：40名(先着順)

募集方法：10月14日(火)~17日(金)復生記念館(87-3509)までご連絡下さい。

(復生記念館 森下裕子)



実習生を受け入れて



高校生 1 日看護体験を終えて

(看護部 三浦千世子)

8月7日、静岡県看護協会主催による年間事業「高校生 1 日看護体験」に 3 名を受け入れました。高校生自身が、「将来看護師になりたい」と自らの意志で参加し、全ての看護体験に熱心に取り組んでいました。

看護体験の振り返りの中で、特に感動した内容は、患者様とのコミュニケーションについてでした。それは、相手に関心を向けさせることの難しさや素晴らしさ、患者様の気持ちを分かり思いやりを持って対応し、安心させることができる看護師になれるように頑張りたい。という思いそのものであると強く感じると同時に、この体験を通して、更に将来への夢や関心が強くなったことが伝わってきました。



今後も、この 1 日看護体験に参加する高校生を喜んで受け入れていきたいと思います。

日本大学短期大学部食物栄養学科 臨地実習

(栄養課 伊藤陽子)

今年も 8 月 4 日～8 日の日程で、日本大学短期大学部食物栄養学科の学生 3 名が当院に於いて栄養士になるための実習を行いました。

恒例となっている納涼祭への参加では、3 名の学生がたこ焼きをまんまるく上手に焼き、ヨゼフ棟の皆さんや職員に喜ばれていました。

栄養課の課内研修では、癌終末期の患者への食での取り組みをテーマにした番組を視聴して、終末期の患者様と関わる時に栄養士として何ができるのかを考える良い機会となりました。

また、同時期に職場体験に来ていた高校生と一緒に療養病棟で車椅子への移乗やおやつ準備のお手伝いしたり、ハンセン病についてのお話を聞いて記念館を見学したりと、大学ではできない数多くの貴重な体験をしました。

～ 実習生のお礼状より ～

「私は実習を通して、コミュニケーションの大切さを学びました。『臨床とはベッドに臨む、つまりいかに患者さんのもとに足を運ぶかということ』と病院の管理栄養士さんがおっしゃっていたように、ただ書類の記録だけを見ている患者さんの嚙下の状態、どんな食事を求めているかなど、本当に大切な部分はわからないと知りました。私も患者さんの心に寄り添えるような栄養士になりたいと思いました。この経験を今後栄養士として就職した時に、食べる人がおいしいと思える食事づくりに生かしていきたいと思います。」



職場紹介(診療技術部・薬局)

正面玄関を入ると中央にこじんまりとした薬局が目に入ります。主に薬剤管理指導業務と入院患者様のお薬や注射剤を各病棟へ医薬品情報などと共に供給しています。当院では平成 19 年より医薬分業を推進しており、外来患者様には『かかりつけ薬局』を持つことをお勧めし、受診の際には原則院外の保険薬局でお薬を受け取っていただいております。

薬学教育も 4 年制から 6 年制に移行し時代の変遷とともに薬局の奥で薬を作っている姿だけでなく業務も多様化してきました。若かりし頃、歌って踊れる薬剤師を目指していた薬局長の川口も還暦を過ぎ、若手の永井薬剤師とともに今日も病院薬剤師が患者様のために何ができるか、地域医療にどのように貢献できるかを考えながら患者様や医療スタッフからの要望に耳を傾けています。



永井 川口

(診療技術部 川口秀俊)



療養病棟レクリエーション「スイカ割り」

(療養病棟
吉田浩美)

8月7日に療養病棟で「スイカ割り」のレクリエーションが行われました。初めに夏の童謡を歌いました。皆さん季節の歌で何度も歌っているのが楽しく歌えました。そして、いよいよスイカ割りです。シートの上にスイカが運ばれ、車椅子に乗ったままや、椅子に腰かけたままで竹の棒を振り下ろし、何人目かの挑戦で大きなスイカにヒビが入った時は大きな拍手が起こりました。思ったように力が入らず、もう一回やりたいとおっしゃる方もいて、和やかな雰囲気で行うことができました。割ったスイカとは別の江藤先生差し入れの大きなスイカを切り分け、皆さんの食事形態に合わせて、杉山副部長手作りのスイカゼリーも登場し、ホスピスからの参加者も含め全員で美味しくいただきました。



ホスピス花火大会開催

(ホスピス病棟
上杉眞佐子)



8月12日にホスピス病棟で花火大会が開催されました。今年は台風に見舞われ一度は延期され、この日も予報は曇り、開催時刻にはしとしと雨が降り始め小雨の中の火が、消えないことを祈りながら始まった花火大会ですが、最後まで実施することができました。

夕食を済ませた患者様は、ご家族と一緒に中庭前の廊下や病室に移動し、噴き上げた花火やナイアガラの滝を楽しんで観賞されていました。真っ暗な中庭がパチパチと赤青黄色に光り患者様の顔が照らされ、一瞬でも痛みや何もかも忘れて見入っていらしゃる様子は印象的でした。スタッフの娘さん達が、かき氷を作ったり花火を手伝ってくれたり、大助かりでした。今年も安全に楽しく実施することができご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。



御殿場高等学校新任研修「復生病院を訪れて」



静岡県立御殿場高等学校教諭 萩 一樹

今回の研修は、私にとってハンセン病の回復者の方のお話を直接伺える初めての機会でした。そして、ハンセン病患者の辿った歴史や辛かった経験、現在でも残る課題などについて知って深く考え、感じるがありました。

多くの困難を乗り越えてこられたかつて患者であった方から学ぶことは多く、教師としても、社会人としても経験の浅い私にとって示唆に富むものでした。例えば、「辛かった経験は自分の人生に必要ではないのか。」という言葉にとっても惹かれました。不条理なものであっても自分の人生の土台とした方の言葉です。

今の高校生には、患者さんたちが経験したような納得のいかぬ苦しみはそうそうはありません。そういう生徒を見ると辛いことや苦しいことに向かっていく気力が足りないと感じることがあります。辛いと思うこと苦しいと思うことが実は自分を鍛えていると生徒には感じ取って欲しいです。

今回の研修を無駄にしないように、学校ではハンセン病について正しい知識を伝え、偏見と差別なき社会をつくっていく生徒を育てるよう努力していきます。

静岡県立御殿場高等学校教諭 佐藤郁美



今回の研修を通して、今までハンセン病について自分がいかに何も知らなかったのか実感しました。ニュースや新聞でハンセン病問題の報道を目にしたことはありましたが、「らい予防法」が廃止され、熊本裁判で決着したと聞き、既に解決した問題だと考えていたのかもしれませんが、しかし、ハンセン病にかかった人が受けた差別を知り、今も傷ついている人がいることを知らなければならないのだと感じました。今回お会いした回復者の方のお話の中で、社会的弱者を人間の体に例えた話がありました。目立たない部分というのは普段あまり意識しませんが、何かあった時に一番痛みを感じる場所であるという話です。目立つ部分にばかり目を向けてはいけないということを知りやすくなり受け入れることが出来ました。今回の研修で学んだことを大切にしたいです。

今回のおすすめ

『水墨画』

ホスピス病棟 勝又美智代



「春霞」
勝又さんの作品

水墨画は、平成 17 年の御殿場市文化協会主催による水墨画教室がきっかけで、現在の先生にご指導いただくようになりました。

水墨画は少ない道具と材料ですぐにも描き始める事ができます。墨の濃淡だけですが、時には不思議に色をイメージしたり感じたりします。筆をバサバサにかすれさせて岩の表現をしたり、たっぷりの水を含ませて雲や水の表現など、色々な表現があります。中には牛乳を使って雪や雨を描き、あとから墨で描くと牛乳で書いた部分が白く抜ける方法もあります。 まだまだ思うように描くことができませんが、雪舟を目指して頑張ります。



外来担当表



	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前	内科(平田) 循環器科(関口) (第3週) 心療内科(飛澤) (予約制)	内科(林)	内科(平田)	内科(林)	内科(江藤) 心療内科(飛澤) (予約制)	内科(飛澤) 皮膚科 (皮膚科外来予定表を ご覧下さい)	休 診
午後	循環器科(関口) (第3週) 14:00~15:30	休 診	休 診	緩和ケア外来 (平田) (予約制)	休 診	休 診	

□ 10月6日からインフルエンザの予防接種をご希望の方は受付・外来にご相談下さい。

皮膚科外来予定表



太田 有史 医師			
診察開始	9:00	診察日	10/4 ・ 11/1 ・ 12/6
新村 真人 医師			
診察開始	9:00	診察日	10/11 ・ 11/8 ・ 12/13
石地 尚興 医師			
診察開始	9:00	診察日	10/25 ・ 11/22 ・ 12/27

お知らせ：第3、5土曜日の皮膚科外来は休診となります。

□都合等により、休診や代診の場合があります。お電話でお問い合わせのうえご来院下さい。

職員募集中

看護師・看護補助・薬剤師

ホスピス・療養に興味のある方
見学も出来ますので、ご連絡下さい。

連絡先：0550-87-0004 担当：森田

編集後記

ある雑誌で京都のお寺六角堂に『鳩みくじ』という人気のおみくじがあると知り8月さっそく行ってみました。お寺の方から「良いことが書かれていたらお持ち帰りください。」と言われたので、そこそこの運勢を確認しおみくじとともに、かわいい素焼きの鳩さんを持って帰ってきました。今は部屋の片隅に飾ってありますが、愛くるしい顔を見るたびに夏を思い出します。 . . .そして気づけば次号は年明けです。

お楽しみ！！ (ま)

